

第2回公開研助言より

「これからの学力」

1人が、どのような仲間と、どのような物と、どのような資料と、関わって問題を解決していけるか。

今後の授業づくりで大切になってくる5つの方向性

◇主体性

「子どもが主体的に学んだ方が、自分のよさを活かしながら、自分の持っている力を伸ばし、より高みを目指すことができる。」

子どもの好きな
ものを最大限
に生かした
組み立て



◇多様性・包摂性

①多様性…障がいなど、その子の実態、興味関心、得意なこと

②包摂性…①のお互いの個性、能力が尊重される。

包摂する…認められ一員として貢献できる機会がある。存在が価値のあるものとして認められる。

授業でその場面をどうつくっていくかが課題

生成AIでの画像
生成に興味あり



書くのが得意、
キーボードで打
ち込むのが得
意



◇ デジタル基盤

互いに不利なこと、苦手なことを補う。

今回はAIを使うことによって、言葉と実像が結ばれ、自分の打ち出した言葉が妥当かどうか判断しやすい。



教師のデジタル基盤の技量が問われる。

◇柔軟性(内容・時間)

「今日の目標がここだから、ここまでいかなければ、という授業が散見されるが、無理やり引っ張っても身につくわけではない。あくまでも子どもに合わせて授業を進めていく必要がある。」



子どもの様子から活動内容の変更を判断した場面。

子どもに合わせる必要がある。

内容の構造化

主語と述語、助詞の用法…これでいいのか問い直しながら

教科で大切にしたいところ(見方、考え方)が
「自分で物語をつくる」ということで行われている。

ジェローム・ブルーナーの提唱した教育課程

「発見学習」「螺旋型カリキュラム」が理論の根底

「知識を受動的に受け取るのではなく、試行錯誤を通して学ぶ」

「学習者が自らの経験を通して知識を発見し、構築する」

文責:研究主任 佐藤昌伸